

浜中社 関東ブロック大会実行委員会

2019年 6月号

関東ブロックだより

発行 浜中社関東ブロック大会研究チーム (担当 森中 田中良樹)

関東ブロックだより

今年度から関東ブロックだよりを発行していきます。2020年度に開催される第38回関東ブロック中学校社会科教育研究大会横浜大会についての取組や新しい学習指導要領などさまざまな情報を提供していきます。役に立つことを載せていきたいと思っております。

ぜひ各学校でみなさん読んでいただければと思います。

関東ブロック横浜大会 研究テーマ

「よりよい社会を実現する力を育む社会科学習」

～社会的な見方・考え方を働かせた深い学びをめざして～

「深い学び」の実現に迫るために、単元を貫く問いを意識して授業を構成することを研究します。具体的には単元をつらぬく問いを設定する際に、人間の営みという点に着目して、教材研究します。地理的分野・歴史的分野・公民的分野において、人間の営みは欠かせない視点であり、人間の営みを扱うことで社会科の学習に切実性をもたせることができると考えました。

研究会

一回目の全体研究会が4/17に開かれました。今年度の活動計画や方針などを行いました。今後は、各分野で研究を進めていきます。

次回の各分野の研究会

◇地理的分野 6/26 (水) 16:00～ @老松中

◇歴史的分野 6/26 (水) 17:00～ @六角橋中

◇公民的分野 6/19 (水) 16:00～ @大綱中

もし、よろしければご参加ください。一緒に勉強していきましょう。

新学習指導要領情報

評価について

文科省から学習評価についての通達が届きましたので、かいつまんでお知らせします。くわしくは http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1415169.htm（学校便利帳からのリンクがあります）

学習評価についての基本的な考え方

(1) カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

学習指導を行い、適切に学習評価をすることで、授業者が指導を振り返り授業改善につなげる。

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

新学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を通して、各教科等における資質・能力を育成する。その際に学習評価が大切。

(3) 学習評価について指摘されている課題

- ・ 事後での評価に終始してしまうことが多く、生徒の具体的な学習改善につながっていない、
- ・ 「関心・意欲・態度」について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない。
- ・ 教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい。
- ・ 教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない。
- ・ 労力をかけて記述した指導要録が次の学年や学校段階において十分に活用されていない。

(4) 学習評価の改善の基本的な方向性

課題を克服して、次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要である。

【1】 生徒の学習改善につながるものにしていくこと

【2】 教師の指導改善につながるものにしていくこと

【3】 慣行として行われてきたことでも必要性が認められないものは見直していくこと

→【1】は、主に**形成的評価**（指導と評価の一体化）のことですね。子どもたちのやる気ができる言葉かけ、支援が大切ですね。

【2】は、学状のアンケートやその他**授業の振り返り**（生徒や教師の）を参考にして、実践を日々、ブラッシュアップしていくことだと思います。

【3】は、大きな見直しは**3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」**になるということです。この変更に伴って、入試の仕組みも変わることが予想されます。